



阿部航太

GRAFITEIROS グラフィティロス

9月14日(火) - 9月25日(土)

Screen

GRAFITEIROS グラフィティロス

(2019 / 70分)

ブラジル都市部にあふれるグラフィティ。それは多様なルーツ、カルチャーが混沌とするブラジルの街から生まれた社会に関わるためのひとつの手段だった。東京で活動するグラフィックデザイナーが、サンパウロに滞在した半年間で体感した都市風景。そこには歪んだ社会に抗いながら、その混沌の波を巧みに乗りこなすグラフィティロ（グラフィティアーティストのブラジルでの呼称）たちがいた。彼らが彩るその風景は、私たちが知っている街の姿を痛快に批判しているように思えた。地球の裏側、多様性の最先端をゆくブラジルのストリートの風景。

[ブラジル 2018-19 / 70分 / ポルトガル語音声 / 日本語字幕]

以下アーティストへの取材（2018-19）に基づく：エニーボ/チアゴ・アルヴィン/オドルス/中川敦夫/ピア

翻訳協力：ペドロ・モレイラ

撮影/編集/監督：阿部航太

協力：Trash Talk Club

Monitor

LOG 2018-19 ブラジル

(2019 / 117分)

『グラフィティロス』を制作した阿部航太がブラジル滞在時に付けていた映像による滞在日記の総集版。サンパウロを拠点としながら、ブラジル各地へ訪れた際に、路上や公共空間に注目して撮影された。『グラフィティロス』に登場するグラフィティロたちが描く背景には、この『LOG』が映し出すような街がある。

[ブラジル 2018-19 / 117分]

撮影/編集：阿部航太



酒井健宏

右にミナト、左にヘイワ。

9月28日(火) - 10月9日(土)

Screen

右にミナト、左にヘイワ。 Port to the Right, Peace to the Left (2017 / 38分)

日本一の貿易量を誇る名古屋港に隣接する西築地学区。働く人が集う一方、水族館や遊園地などには観光を楽しむ人びとが数多く訪れて賑わいをみせている。海から振り返ると、港に暮らす人びとの住むまちがある。広大な埠頭、防潮堤や防潮壁、運河と橋、線路跡、工場と倉庫、商店、神社、公園。港まちに暮らす人にとっての日常的な光景は、他方でこのまちを訪れた人びとの想像力を大いに刺激する。

「そんな港まちで、港まちの、映画をつくりたい」。酒井健宏を中心に、東海エリアで映像や芸術に関わる人びとが集まり、企画から取材、台本作成を経て、撮影を敢行。撮影に参加した地元の人びとを含むプロの俳優ではない登場人物が豊かな表情を見せる防災 SF ファンタジーが完成した。

江戸時代の干拓による新田開発から、明治期の開港を経て、今日の街並みを形成した名古屋港。台風や地震による甚大な被害と絶えず向き合ってきた。本作では特に1959(昭和34)年の伊勢湾台風スポットをあて、被災の記録と記憶を物語に反映させることで、防災への関心を喚起し、世代や地域を超えたコミュニケーションの発生の起点となることを目指している。

[2017年/日本/HD (Blu-ray) /カラー/ステレオ/16:9 / 38分]

出演：内藤佑樹、小川愛、加藤久昌、白井なつ美、九鬼通夫 ほか

監督/脚本/編集：酒井健宏 撮影/照明：岩田隼之介、山川智輝 録音：浜口春樹、岩田亜美 衣装/ヘアメイク/広報宣伝：岩田真実 劇中アニメーション：佐藤美代 書道指導：田中芳江 スチル撮影：加藤大綺 助監督：名倉彰孝 撮影補佐：公平里佳、宮田暁生、安井康喜 制作補佐：伊藤修、窪田互志、小橋玲奈、棚橋実咲、中山里玖、濱口憲嗣、松波佑奈 美術/持道具協力：野地一正、田中芳江、マルタショップ ロケーション協力：公益財団法人名古屋みなと振興財団、名古屋港管理組合、港まちづくり協議会、名古屋市港区西築地学区、西築地コミュニティセンター運営委員会、築地神社、有限会社ハーバー 制作協力：専門学校名古屋ビジュアルアーツ映像学科、一般社団法人名古屋シネマテーク、名港サイファー、林緑子 主催：港まちづくり協議会(平成28年度提案公募型事業) 企画運営/制作：みなとまち映画ポートレート



hyslom オムニバス

10月12日(火) - 10月23日(土)

Screen

山から都市へと移りゆく造成地や自然環境などさまざまな場所をフィールドに、身体を駆使したアクションを通じて関係を探してきたヒスロムの作品群の中から「City / Action」をテーマにセレクトした5作品を紹介する。



《#1》 2015 | 4分40秒

2009年から定期的に通っている造成地で見えてきた風景や遭遇した出来事や生き物、体験してきたことなどを、この場所に新しく出来た公園の人びとに伝えてみる。



《#2》 2015 | 11分30秒

造成地から遠く街の景色を見ていると、突然流れ星を見つけた。とても大きな光を放ち、長い時間をかけ、とてつもなく大きな何かの流れが空を割り消えた。ゴゴゴッと燃えて空気を切る音が聞こえた気がした。それは流れ星を見た、というより、どこかに落ちていく隕石を見た、と居合わせた皆が思った。ヒスロム映画系シリーズの一つ。



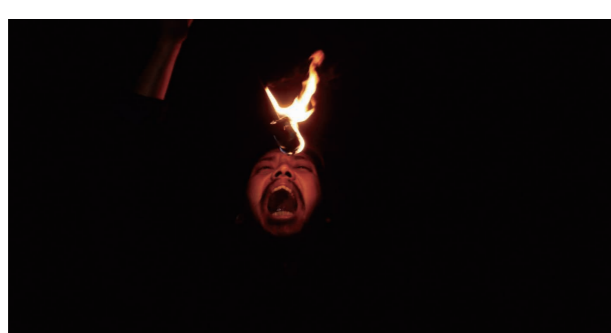
《#3》 2018 | 22分57秒

2011年、馴染みのある場所の地下空間にゴムボートを浮かべ、仰向けに寝そべる格好でボートに乗り、水面に浮く体に古材がたくさん積まれた。そして、指で天井を触りボートを操作し、大きな横穴に材を入れ、暗く狭い通路を通った。7年後、またボートを浮かべた。あの古材が来た道を帰る。



《#4》 2016 | 4分48秒

新しく開かれている土地、新西之島は噴火を続けながら土地を生成している。その噴煙や爆音を感じたくて一番近い場所、父島を訪ねたが、このとき噴火は起こらなかった。噴火を想像して海の底を足でさわってみる。



《#5》 2016 | 16分13秒

噴火を想像して火と関わる。